

◆前営業日の相場動向◆

米利上げ観測で米金利・ドル上昇、日経平均は最高値更新

	6/22	前日比		6/22	前日比		6/22	前日比
日本国債(10年)	2.670%	0.025%	日経平均(円)	72,353.96	1,103.90	ドル円	161.57	0.27
独国債(10年)	2.952%	-0.033%	独DAX(pt)	25,139.69	153.87	NY原油	74.82	-1.78
米国債(10年)	4.509%	0.056%	NYダウ(ドル)	51,712.71	148.01	NY金	4,181.90	-42.20

【ポイント】

- **日本株は上昇:**米・イランの最終合意に向けた協議進展への期待が相場の追い風となった。AI・半導体関連株への買いも続き、日経平均は終値で初めて7万2000円台に乗せ、最高値を更新した。
- **米国株はまちまち:**米・イラン協議の進展を受け、原油価格が下落したことで株式買いを誘い、ダウは上昇した。一方、AI・半導体関連銘柄に売りが出たことや米金利上昇が重荷となり、S&P500とナスダックは下落した。
- **米金利は上昇:**年内の利上げ観測が一段と高まった。市場では7月利上げの可能性も意識されるなか、10年金利は4.5%台へ上昇した。
- **ドル円は上昇:**米利上げ観測の高まりを背景に、ドル買いが優勢となり、一時162円目前まで上昇した。一方で、為替介入への警戒感も強く、ドル円は乱高下する展開となった。

【主な材料】

- 米・イラン、60日以内の最終合意に向けた行程表に合意
- 片山財務相、「必要に応じていつでも適切に対応」と円安をけん制

◆本日の見通し◆

日経平均は高値圏を維持、米金利は上昇、ドル円は介入への警戒が続くと予想

予想レンジ

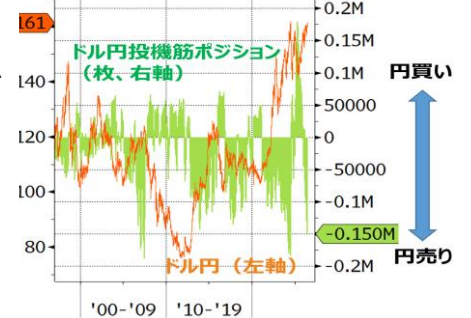
日本株	⇒ 72,000-73,000
米金利	↗ 4.50-4.60
ドル円	⇒ 161.40-161.90

- **日本株**は横ばいを予想。前日の米ハイテク株安が重しとなる一方、日経平均は高値圏での推移が続いており、一進一退の展開となろう。
- **米金利**は上昇を予想。FRBの利上げ観測が高まるなか、週後半の米物価指標を前に金利上昇圧力は続こう。
- **ドル円**は横ばいを予想。米金利上昇によるドル買い圧力が続く一方、162円手前では介入警戒が上値を抑えよう。

◆本日の注目ポイント◆

直近高値接近で神経質なドル円相場

- ドル円は2024年7月高値の161.95円に接近している。この水準は過去2年間の上値抵抗線として意識されてきただけに、市場の関心は突破の可否に集まっている。仮に明確に上抜ければ、市場参加者の視線は1980年代後半以来の高値圏へ移り、次の上値目途を探る展開となろう。
- もっとも、当局による為替介入への警戒感も高まりつつある。明確に水準を押し下げるといよりはスピード調整の介入が想定される。6/23時点のIMM通貨先物統計では、投機筋の円売りポジションは15万枚と、2024年の介入局面や2007年の円キャリー取引拡大局面に匹敵する規模に達している。過去の経験則では、ポジションの巻き戻しが生じた場合(円買い、ドル売り)、一時的に5万枚の解消で3円程度の円高圧力が発生する可能性がある。
- しかし、足元のドル円上昇は投機主導というより、米国景気の底堅さや利上げ観測の高まりを背景としたファンダメンタルズ主導の色彩が強い。仮に介入やポジション調整によって円高が進んだとしても、その持続性は限定的となる可能性が高い。当面は介入やポジション巻き戻しによる円高圧力とファンダメンタルズによるドル高圧力に左右される展開となろう。



(出所: Bloomberg)

◆当面の注目イベント◆

	イベント	注目点
7/3	米国独立記念日	中間選挙も近づくなか、今年の折り返し地点であり、マーケットも上期を総括し、次のスタンスを探る機会となる。トランプ米大統領が国民向けにアピールとして対外に関税発動や軍事行為に踏み切るリスクもある。
7月中	骨太方針2026の閣議決定	来年度予算の方針の骨格となるもの。高市政権は財政拡張路線とされており大規模な財政には警戒感が強まっている。一方、歳出削減についても議論が進められており、全体として財政への配慮がうかがえるかが焦点となる。

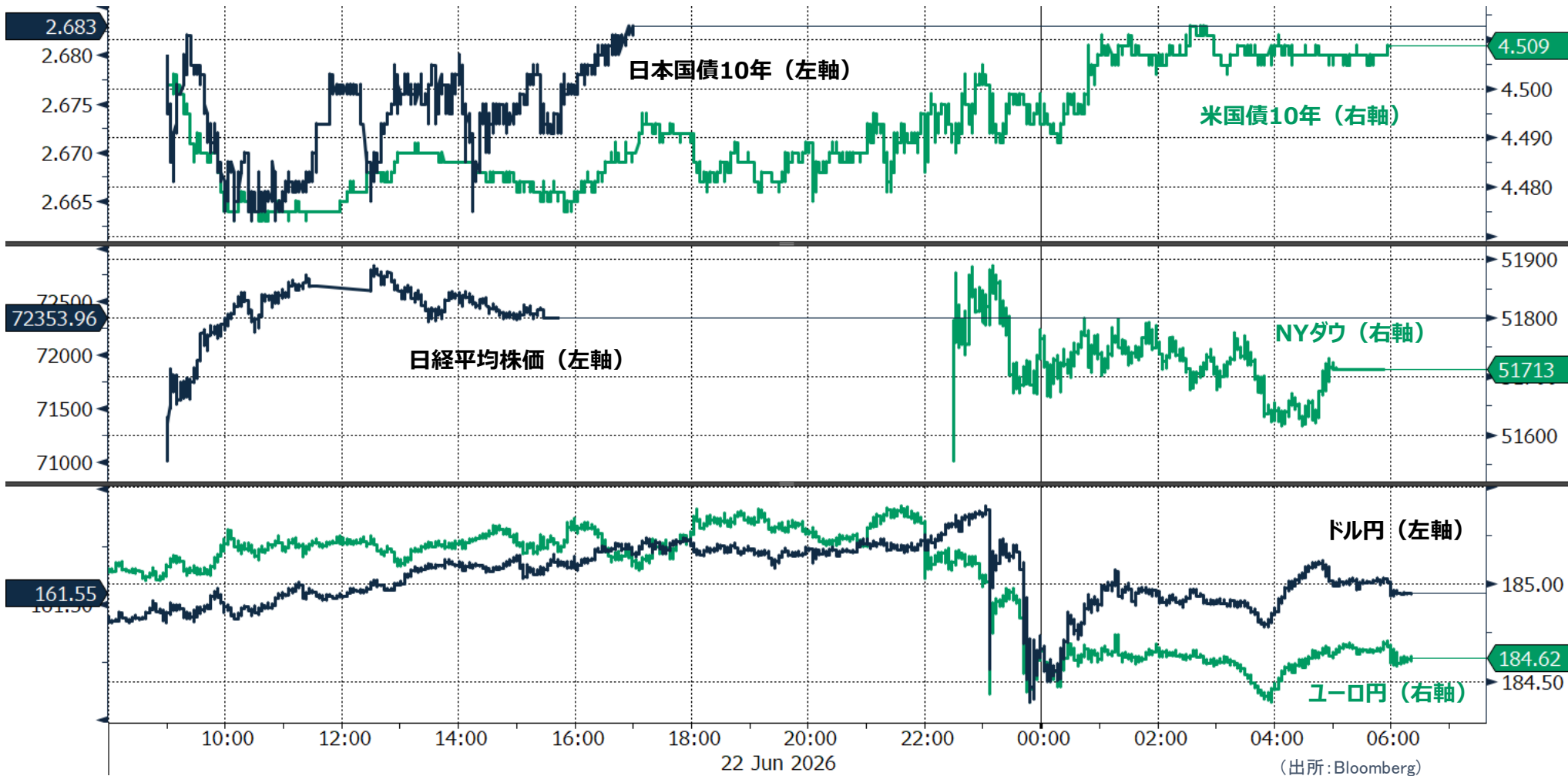
◎注意事項◎ お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。



りそな マーケットフラッシュ デイリー

◆前営業日のマーケット動向◆

- TOPIX33業種中 22業種が上昇（値上がり率上位）非鉄金属>ガラス・土石>電気機器
- S&P11業種中 7業種が上昇（値上がり率上位）不動産>エネルギー>ヘルスケア
- 主要通貨強い順 GBP>USD>CAD>AUD>JPY>CHF>EUR

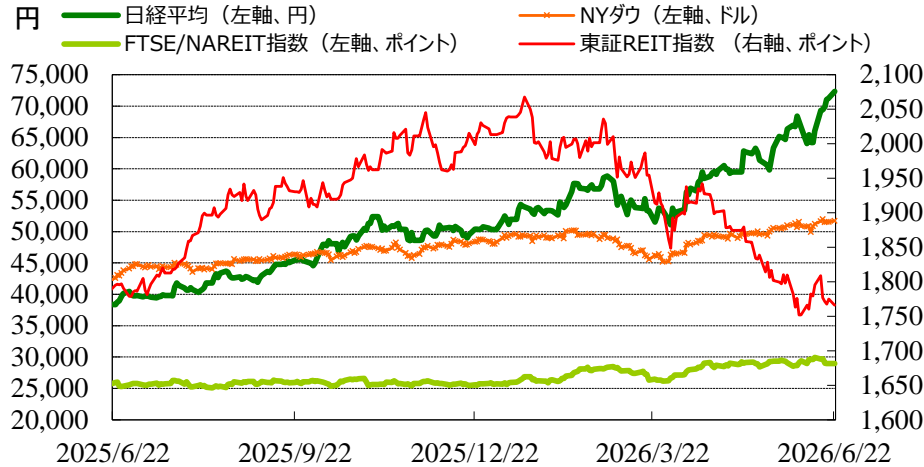


◎注意事項◎ お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

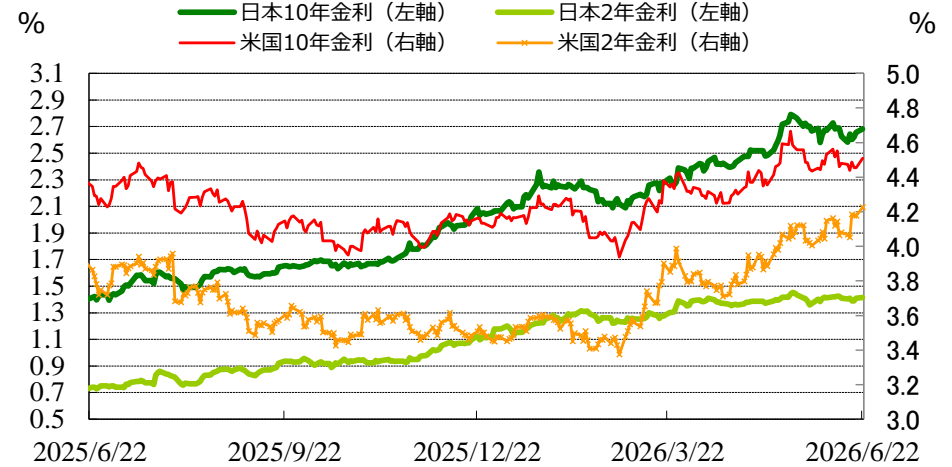
(出所：Bloomberg)

◆マーケット・チャート◆

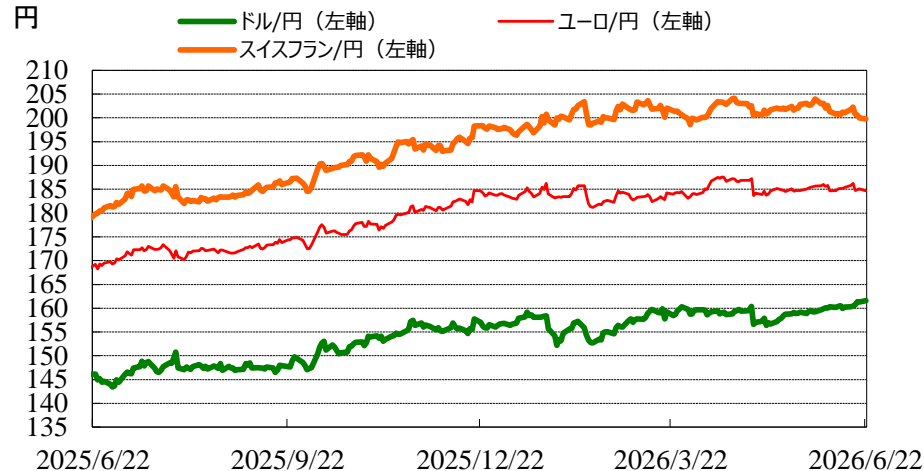
図表1：株式市場（日経平均、NYダウ、東証REIT指数、FTSE/NAREIT指数）



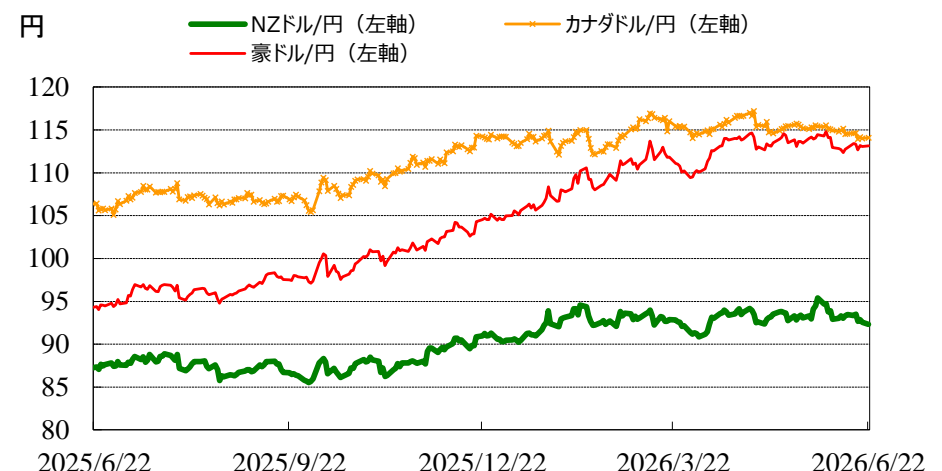
図表2：債券市場（日米2年金利、10年金利）



図表3：為替市場（ドル/円、ユーロ/円、スイスフラン/円）



図表4：為替市場（豪ドル/円、NZドル/円、カナダドル/円）



◎注意事項◎ お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

(出所：Bloomberg)

◆マーケット・チャート◆

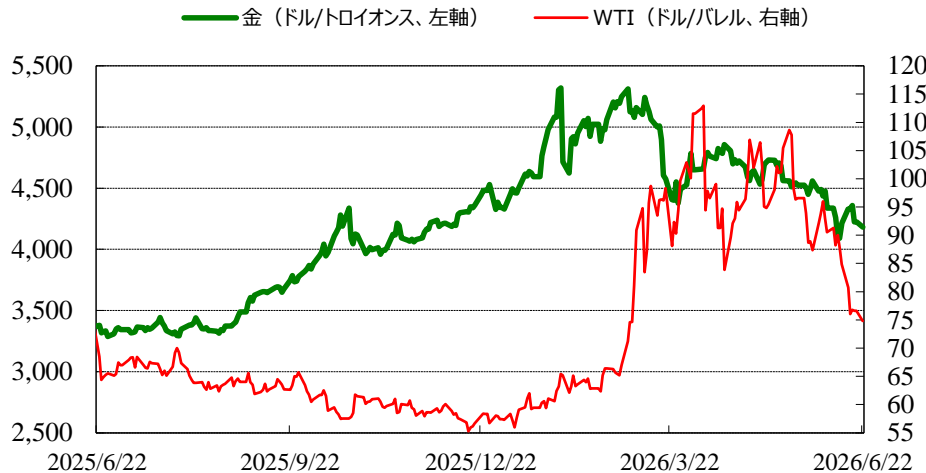
図表5：為替市場（ブラジルレアル/円、メキシコペソ/円、トルコリラ/円）



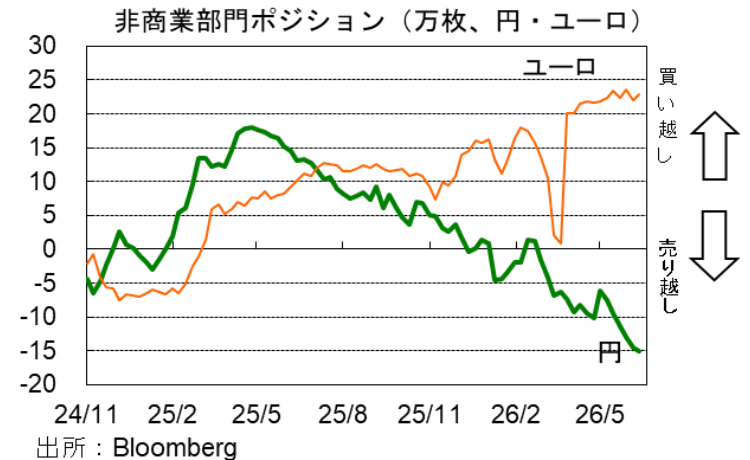
図表6：株式市場（ブラジル株、インド株、中国株）



図表7：商品市場（金・原油）



図表8：IMM非商業部門ポジション（円・ユーロ）



6/16時点 円 ▲150千枚 (前週比▲千枚) ユーロ+228千枚(前週比+8千枚)

◎注意事項◎ お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されてい
ると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的として
おり、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

